



平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学, 理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

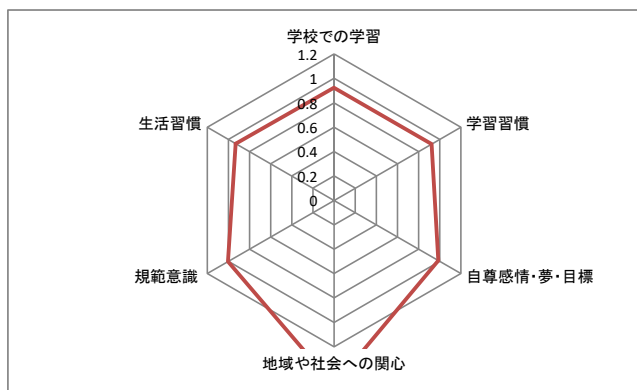
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	無回答率が低い。話すこと聞くことの正答率が高い。 敬語や慣用句などの語句の使い方の問題は、よくできている。	上回っている
国語B	無回答率が低い。話すこと聞くことの正答率が高い。 登場人物についての説明として適切なものを選択する問題は、よくできている。	上回っている
数学A	全体的に全国平均を下回っている。図形分野は全国平均を上回っている。 数や文字式の計算、方程式や比例式を解く問題は、よくできている。	下回っている
数学B	全体的に全国平均を下回っている。資料の活用分野は全国平均を上回っている。 与えられた情報から必要な情報を選択する問題は、よくできている。	下回っている
理科	全国正答率に比べて、物理的分野と生物的分野の正答率が高い。 自然事象の知識・理解は高い。観察・実験の技能についての正答率が高い。	上回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> 家で自分で計画を立てて勉強する生徒は、全国平均を下回っている。定期考査の取組を計画的にさせたい。 家庭での学習時間が、全国平均を若干下回っている。尾倉ノートや課題プリントを徹底させたい。 将来の夢や希望をもっている生徒は、全国を若干下回っている。夢を実現させるために、職業講話などで具体的な目標をもたせたい。 毎日、朝食を食べているについて、全国平均を若干下回っている。学校通信などで、朝食の重要性を啓発していきたい。 地域や社会への関心が、全国平均を大きく上回っている。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 家庭学習を計画的に行うように、尾倉ノートや課題プリントを徹底させる。
- 授業で、自分で考え意欲的に取り組むように、グループ討議など授業改善を推進する。
- 「書く」分野の正答率が低い。自分の考えを書いて整理してから説明させたり、書く活動を位置付ける。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 学習方法をまとめた「学習の手引き」や「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用する。
- 尾倉ノートや課題プリントなどで、家庭学習習慣や基礎学力のより一層の向上を図る。
- 学校便り、学校HPで、学力・体力向上ステップアップについて知らせる。